

令和 7 年 8 月 食品ロス実態調査報告書
秋田市食品ロス実態調査報告書

令和 7 年 1 0 月 6 日 発行

1 実施概要

■実施日時	令和 7 年 8 月 2 1 日（木）、2 2 日（金）
■作業場所	秋田市総合環境センター
■作業時間	8：30～17：00（昼食休憩 1 時間、準備片付け含む）
■作業体制	秋田市職員のべ 1 4 名（地域別家庭ごみ組成調査） 受託業者職員のべ 6 名（食品ロス調査）
■調査資料	・表記調査と同日に行う「地域別家庭ごみ組成調査」の調査資料である家庭ごみ 100 袋のうち、生ごみに分別された試料を「食品ロス実態調査」の調査試料とした。 ・調査資料である 100 袋の地区別の収集数は、中央、東部、西部、南部、北部、河辺・雄和の 6 地区の人口構成比により以下のとおりとした。 【8 月 2 1 日】 中央（檜山 11 袋）、東部（東通 10 袋）、西部（新屋元町又は日吉町 5 袋）、南部（御所野 8 袋）、北部（下新城中野 6 袋、金足 6 袋）、河辺・雄和（河辺 4 袋） 【8 月 2 2 日】 中央（川尻 6 袋、大町 6 袋）、東部（添川 4 袋、旭川 4 袋）、西部（新屋勝平町 6 袋）、南部（上北手 8 袋）、北部（飯島 12 袋）、河辺・雄和（雄和 4 袋） ・調査資料の重量は、国の「家庭系食品ロスの発生状況の把握のためのごみ袋開封手順書」で示している「100 世帯分程度のごみ袋又は生ごみで 100kg～150kg 程度」としていることを踏まえ、上記 100 袋に含まれていた生ごみ約 160kg とした。

2 調査方法

調査方法は、国の「家庭系食品ロスの発生状況の把握のためのごみ袋開封手順書」に従って以下のとおり実施した。

(1) 試料採取

各地区の収集を担当する委託業者の運転員が、それぞれ当該地区のごみ集積所から、予備の袋も含め無作為に採取し、破袋しないよう作業所まで運搬、到着後、必要袋数を市職員が無作為に抽出した。

(2) 作業内容

- ・調査対象となる 100 袋に含まれる各地区ごとの食品廃棄物（生ごみ）の重量を計量した。
- ・食品廃棄物のうち、手付かず食品（100% 残存・50% 以上残存・50% 未満）と食べ残し、調理くず、その他に分類し、重さを計量した。
- ・手つかず食品の賞味期限および消費期限を確認した。

3 調査結果

(1) 試料中の食品廃棄物の割合

調査対象とした試料について（図表 1）、6 地区の100袋の合計重量は、356.3kg、1 袋あたりの平均重量は約3.6kgであった。

図表 1 調査対象とした試料概要（秋田市）

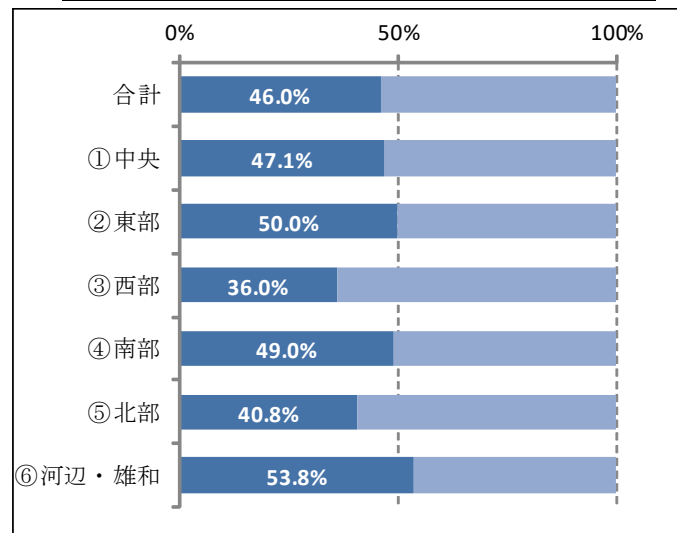
	袋数（個）	重量（kg）	容量（L）	袋あたり	
				重量（kg）	容量（L）
合計	100	356.3	3,560	3.6	35.6
①中央	23	69.9	830	3.0	36.1
②東部	18	76.7	540	4.3	30.0
③西部	11	35.8	400	3.3	36.4
④南部	16	51.1	565	3.2	35.3
⑤北部	24	88.6	895	3.7	37.3
⑥河辺・雄和	8	34.2	330	4.3	41.3

※合計は、6 地区の調査結果を足して算出したもの

試料中の食品廃棄物の割合について（図表 2）、6 地区の合計割合では、46.0%となっている。

地域別に見ると、⑥河辺・雄和が最も高く53.8%、次いで②東部の50.0%、④南部の49.0%、①中央の47.1%、⑤北部の40.8%、③西部の36.0%となっている。

図表 2 試料中の食品廃棄物の割合（秋田市）



	サンプリング試料 A	うち、食品廃棄物 B	食品廃棄物割合 C (=B/A)	食品廃棄物以外 D (=1-C)
合計	356.34	163.77	46.0%	54.0%
①中央	69.90	32.89	47.1%	52.9%
②東部	76.71	38.37	50.0%	50.0%
③西部	35.80	12.88	36.0%	64.0%
④南部	51.07	25.03	49.0%	51.0%
⑤北部	88.62	36.18	40.8%	59.2%
⑥河辺・雄和	34.24	18.42	53.8%	46.2%

※合計は、6 地区の調査結果を足して算出したもの

(2) 食品ロス（直接廃棄、食べ残し）の割合

食品廃棄物のうち、調理くずを除く、直接廃棄および食べ残しを食品ロスとする。

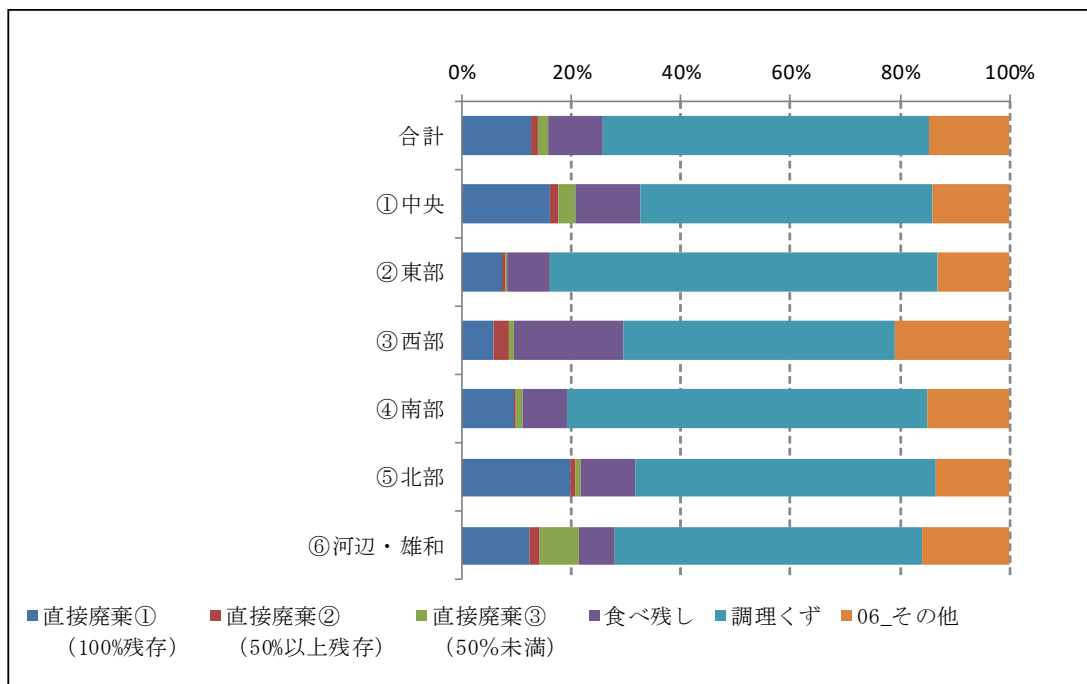
食品廃棄物のうち食品ロスの重量割合について（図表 3）、6 地区の合計割合では 25.8%となっている。

地区別に見ると①中央が最も高く 32.5%、次いで⑤北部の 31.8%、③西部の 29.5%、⑥河辺・雄和の 28.1%、④南部の 19.2%、②東部の 16.1%となっている。

直接廃棄に着目すると、6 地区の合計割合では、まったく手付かずの直接廃棄（100%残存）は、食品廃棄物のうち 12.7%を占めており、⑤北部で 19.9%と高く、次いで①中央が 16.3%、⑥河辺・雄和が 12.2%、④南部が 9.5%、②東部が 7.4%、③西部が 6.0%となっている。

同様に、食べ残しに着目すると、6 地区の合計割合では 10.0%となっている。③西部が 19.9%と高く、次いで①中央が 11.8%であり、⑥河辺・雄和が最も低く 6.7%となっている。

図表 3 食品ロス（直接廃棄、食べ残し）の割合（秋田市）



	食品ロス割合	うち直接廃棄（手付かず）			うち食べ残し
		100%残存	50%以上残存	50%未満残存	
合計	25.8%	12.7%	1.2%	1.9%	10.0%
①中央	32.5%	16.3%	1.3%	3.2%	11.8%
②東部	16.1%	7.4%	0.7%	0.2%	7.8%
③西部	29.5%	6.0%	2.8%	0.8%	19.9%
④南部	19.2%	9.5%	0.4%	1.1%	8.2%
⑤北部	31.8%	19.9%	1.1%	1.0%	10.0%
⑥河辺・雄和	28.1%	12.2%	2.1%	7.1%	6.7%

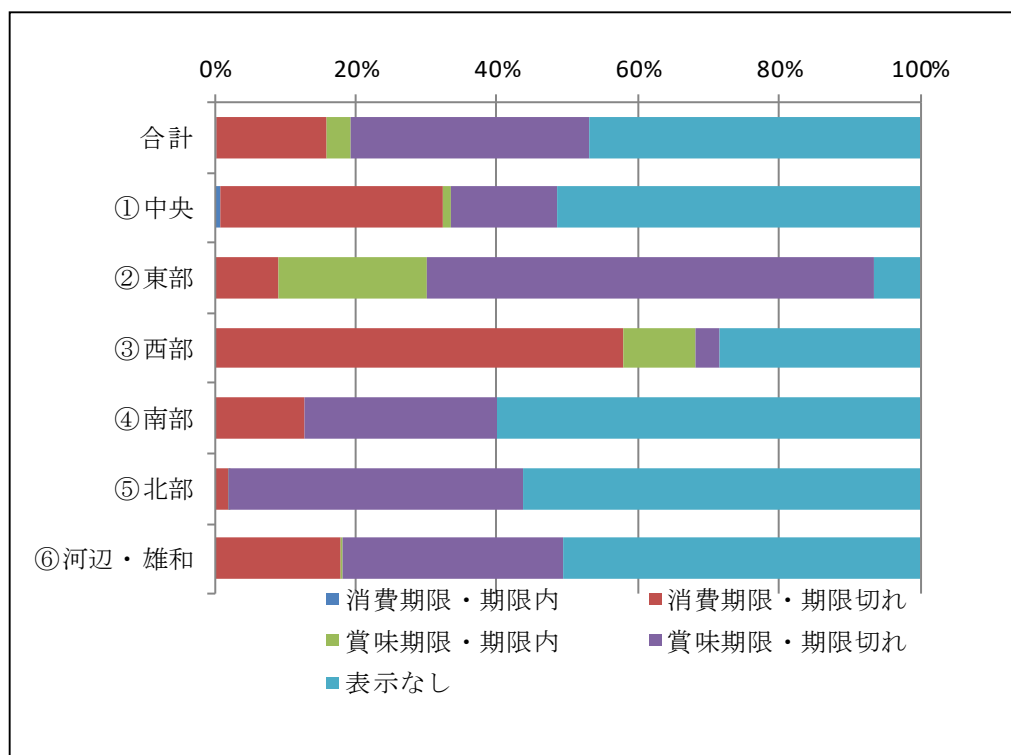
※合計は、6 地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、食品ロス割合の内訳（直接廃棄・食べ残し）の合計は、食ロス割合と合致しない場合がある。

(3) 直接廃棄されたものの消費・賞味期限について

直接廃棄（100%手付かず）の消費・賞味期限の記載状況・期限について（図表4）、6地区の合計割合では「表示なし」が最も多く47.1%であり、消費期限の表示があったものは15.6%（期限内はなしで、期限切れが15.6%）、賞味期限の表示があったものは37.3%（期限内が3.6%、期限切れが33.7%）となっている。

消費期限に着目すると、（100%手付かず）のうち「期限内」のものはなしで、「期限切れ」については、③西部地区で最も高く57.8%であった。賞味期限に着目すると、「期限内」のものが直接廃棄（100%手付かず）のうち3.6%、地区別に見ると②東部地区が最も高く21.1%であった。

図表 4 直接廃棄（100%手付かず）の消費・賞味期限について（秋田市）



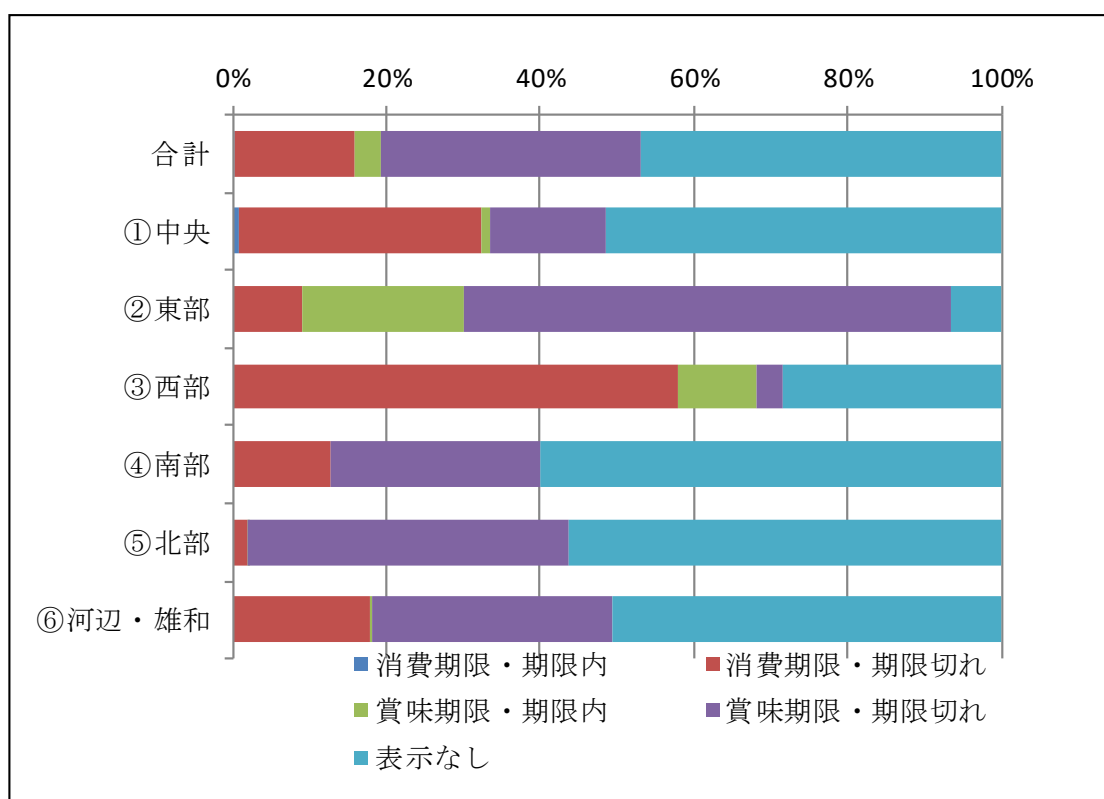
	消費期限		賞味期限		表示なし
	期限内	期限切れ	期限内	期限切れ	
合計	0.0%	15.6%	3.6%	33.7%	47.1%
①中央	0.0%	31.8%	1.0%	15.3%	51.8%
②東部	0.0%	9.0%	21.1%	63.4%	6.5%
③西部	0.0%	57.8%	10.4%	3.2%	28.6%
④南部	0.0%	12.6%	0.0%	27.4%	60.0%
⑤北部	0.0%	1.9%	0.1%	41.8%	56.3%
⑥河辺・雄和	0.0%	17.7%	0.4%	31.3%	50.6%

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、合計が100%にならない場合がある。

同様に、直接廃棄全体（100%手付かず、50%以上残存、50%未満残存）での消費・賞味期限の記載状況・期限について（図表 5）、6 地区の合計では「賞味期限（期限切れ）」が最も多く 33.2%であり、消費期限の表示があったものは 18.0%（期限内は 0.2%、期限切れ 17.8%）、賞味期限の表示があったものは 37.3%（期限内 4.1%、期限切れ 33.2%）となっている。

賞味期限に着目すると、「期限内」のものが直接廃棄のうち 4.1%となっている。地区別に見ると②東部地区が最も高く 18.9%となっている。

図表 5 直接廃棄（合計）の消費・賞味期限について（秋田市）



	消費期限		賞味期限		表示なし
	期限内	期限切れ	期限内	期限切れ	
合計	0.2%	17.8%	4.1%	33.2%	44.7%
①中央	0.9%	32.0%	2.6%	12.9%	51.6%
②東部	0.0%	10.7%	18.9%	62.7%	7.7%
③西部	0.0%	44.3%	8.5%	23.2%	24.0%
④南部	0.0%	8.4%	0.0%	43.5%	48.0%
⑤北部	0.0%	3.5%	2.6%	42.7%	51.1%
⑥河辺・雄和	0.0%	27.6%	0.3%	19.2%	52.9%

※合計は、6 地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、合計が 100%にならない場合がある。

(4) 一人1日当たりの食品ロス発生量

調査結果を踏まえて、令和6年度の実績を参考に一人1日当たりの食品ロス発生量を推計すると55.8g/人・日となり、その内訳を見ると直接廃棄（100%手付かず、50%以上残存、50%未満残存）が34.2g/人/日、食べ残しが21.6g/人・日と推計された。

図表6 一人1日当たりの食品ロス発生量（秋田市）

